

わかば 生活単元学習授業案

わかば1・2教室 授業者 前田綾子・鈴木啓子

- 1 単元名 関わりを広げよう！友だちとの輪・和 ～きょうりゅう茶会を成功させよう大作戦～  
 2 本単元に身につけさせたい力と利他の心

夏休みに特別支援学級と栽培部共同で保育園訪問を行った。生徒たちは、紙芝居やシャボン玉遊びでたくさんの園児とふれ合い、楽しい時間を過ごすことができた。園児たちから「きょうりゅう兄ちゃん」と親しみを込めて呼ばれたり、「また来てね」と声をかけられたり、満足感・達成感をもって終えることができた。そこへ、園長先生から「西尾中学校の伝統である茶会を、ぜひ園児のために開いてほしい」という依頼を受けた。生徒たちは、園児たちにもっと喜んでほしいという気持ちを膨らませ、年長児のために「きょうりゅう茶会」を開くことを決める。しかし、特別支援学級の仲間は3人なのに、おもてなしをする年長児は25人。計画を立てる段階で、自分たちだけの力では年長児を楽しませる十分なおもてなしができないと3人は気づく。年長児が喜ぶきょうりゅう茶会を成功させるには、手伝ってくれる仲間が必要である。交流学級や栽培部・茶道部の生徒に協力してほしいとはたらきかける過程でコミュニケーション力を磨いていく。コミュニケーション力や協調性など将来の自立につながる力を身につけると共に、人間関係を広げるきっかけとなる。さらに茶会の成功体験が生徒たちの自己肯定感を高め、自分にできることで、もっといろいろな人の役に立つことがしたいという気持ちをもつだろう。

3 単元構想表（8時間）

入口の姿	全校茶会の「くたり茶会」はお客様に楽しんでもらえて大成功だったね。喜んでもらえてうれしかった。保育園訪問では、紙芝居やシャボン玉遊びを園児さんたちは楽しんでくれたね。Aは「きょうりゅう兄ちゃん」って大人気だったよ。また、楽しいことが計画できるといいね。
------	--

生徒の思い	①学びのステップ	教師のてでたて
<p>くさの実保育園のみんなに楽しんでもらう計画を立てたいな（第1時）</p> <p>A：恐竜の真似をして遊んであげる。 B：何がいいかなあ。 C：絵本を読んであげる。</p> <p>← 年長児のために、ぜひ、お茶会を開いてください。（園長先生）</p> <p>ABC：決めた！年長さんのために「きょうりゅう茶会」をやろう。</p> <p>作戦①きょうりゅう茶会では、僕（私）はこの役をやりたい！（第2時）</p> <p>A：今度は恐竜になつて席主をやりたいな。 B：前は余興のリーダーで筆をやったから今度も筆をやろうかな。 C：お点前を見てほしいわ。</p> <p>ABC：年長さんは25人。とてもたくさんいるよね。わかばだけでおもてなしできるかな。お手伝いを頼んだほうがいいのかな？でも、誰に頼もう？</p> <p>作戦②3人じゃあ、大変だ。一緒にやる仲間を増やそう！（第3時）</p> <p>A：一緒に恐竜をやってくれる子いるかな。 B：2年5組の音楽と一緒に筆をやった仲間に頼みたい。 C：話しやすい子と一緒にやりたいな。</p> <p>A：自分で言うのは恥ずかしいなあ。 B：でも、どうやって頼めばいいんだろう。 C：「一緒にやろう」って言えばいいよ。</p> <p>A：栽培部の1年生に頼もうかな。 B：勇気を出して、頼んでみようかなあ。 C：茶道部で一緒にお点前を習った子に頼もう。</p> <p>作戦③どんな工夫をするといいかな？相談して、練習しよう（第4～6時）</p> <p>A：お面をつけて、ガオーって言おうかな。 B：年長さんにもわかる曲がいいかなあ。 C：わかりやすいようにゆっくりやろう。 *小さい子は待つのが苦手じゃないかな。（交流学級の仲間）</p> <p>いよいよ本番。みんなで協力してやろう！（第7時）（本時7/8）</p> <p>A：恐竜チームの仲間と照れずに格好よくやろう。 B：緊張するけどみんなの顔を見てやれるようにがんばろう。 C：年長さんにおいしいお茶を飲ませてあげたいからがんばろう。 *ここにいる全員が仲間だから大丈夫だよ。一緒にがんばろう。（交流学級の仲間）</p> <p>お疲れ様でした。協力してくれて、ありがとう（第8時）</p> <p>A：年長さんが喜んでくれてうれしかった。 B：はじめは恥ずかしかったけれど、今はよかったと思う。 C：みんなが手伝ってくれたから、成功したと思う。 *わかばのみんなと一緒に活動できて、楽しかった。また、一緒にやりたいな。（交流学級の仲間）</p>	<p>1「年長さんが楽しめるお茶会にしたいな。」</p> <p>2「年長さんのために、自分もCOOの役をやりたいな。」</p> <p>3「わかばだけじゃ大変だよ、一緒にやってくれる仲間をさがそう。」</p> <p>4「きょうりゅう茶会成功させるためにみんなでアイデアを出し合おうがねえ。」</p> <p>5「いよいよ、きょうりゅう茶会の本番だ。成功させよう！」</p> <p>6「一緒にやった仲間と振り返りの会を開こう。また、一緒にやれるといいな。」</p>	<p>②生徒の日常生活につながる題材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>くさの実保育園の年長児との交流会を意欲的計画し、進めることができるように、訪問時や職場体験学習時の写真、園長先生からの手紙を提示する。（入口→1）</li> <li>きょうりゅう茶会で、年長児のために自分は何がしたいか考える場面で、くたり茶会の写真を提示し、茶会での役割が想起できるようにする。（1→2）</li> <li>保育園訪問時や保育園での職場体験の時の様子を思い出せるように、活動記録や園児の様子が分かる写真を提示する。（2→3）</li> </ul> <p>③仲間との関わりを促す場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年長児25人をおもてなしするきょうりゅう茶会を成功させるのに、3人では人手不足で難しいことに気づき、その問題を解決するためにどうしたらよいか、Bをキーパーソンに意見を交流し、一人一人が考えを深める場を設定する。</li> <li>新しい仲間とチームに分かれて、きょうりゅう茶会を成功させるためのアイデアを出し合って話し合う場を設定する。</li> <li>話し合いをもとに練習を進める過程で、メンバー全員の協力で茶会を成功させることを意識させるために、互いのチームの考えた工夫が適切か全員で検討する場を設ける。（3→4）</li> <li>自分たちの力で成功させたい気持ちを高めるために、自作の活動メモ等を携帯させ、教師の直接的な声かけが少ない状況をつくる。（4→5）</li> </ul> <p>④実社会とのつながりを考えさせる場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>茶会后、3人のふり返りの会を開き、写真等を手がかりに、時系列で活動をふり返り、仲間と呼びかけて、一緒に協力して活動したことが成功につながったことに気づかせる。その後、全員の振り返りの会を開き、仲間の思いも聞き、仲間へありがとうの気持ちを伝える場を設定する。困った時には一人で何とかしようとするのではなく、仲間へ呼びかけたり、大人に相談したりすることが解決につながることに気づかせる。（5→6→出口）</li> </ul>
出口の姿	<p>A：年長さんは恐竜を見て喜んでたね。楽しかった。</p> <p>B：筆は初めて見たって。上手だねって言ってくれた。照れくさかった。</p> <p>C：お茶は苦そうだったけど、ありがとうって言ってくれた。うれしかった。</p>	きょうりゅう茶会は大成功だったね。
利他の活動	<p>A：自分がやったことが年長さんに喜んでもらったのはうれしかった。今度やるときは、年商酸や年中さんも楽しませたいな。</p> <p>B：仲間と協力してやると一人でやるよりも恥ずかしくなかった。次は、クリスマス会に招待したいな。</p> <p>C：保育園の子だけでなく、お年寄りやもっとみんなに喜んでもらえることを、また計画してやりたいな。</p>	

4 本時の展開 (7/8)

(1) 目標

- ・年長児のためのきょうりゅう茶会を成功させようという気持ちで活動することができる。
- ・チームの仲間と声を掛け合い、協力して茶会を進めることができる。

(2) 過程

時間	生徒の思いと教師のてだて (※)		
5分	<p><b>②日常生活につながる題材</b> ※日頃から交流のあるくさの実保育園の年長児を招待し、親しみをもって活動できる場を設定する。</p>		
	<p>1 今から、きょうりゅう茶会が始まるよ。司会のAチーム、がんばれ!</p>		
	<p>A: きょうりゅう兄ちゃんです。僕たちきょうりゅうチームが司会をやります。みんな楽しんでね。</p>	<p>B: みんなは、箏を知っていますか? 僕のチームは箏を演奏するので、聞いてください。</p>	<p>C: 私のチームは、みなさんにお茶を点てるところを見てもらいます。楽しみにしてください。</p>
25分	<p>2 次はCチームの出番だよ。お点前がんばってね。</p>		
	<p>A: みんな、お菓子を食べていいよ。お茶も飲もうね。</p>	<p>B: 全員にお菓子とお茶が確かめよう。僕はこの列を見るね。○○君、そっちの列を頼むよ。</p>	<p>C: 今からお茶を点てます。お点前と言います。いろいろな道具を使うので見ていてね。</p>
	<p>*お茶碗の持ち方はこうだよ。熱いから気をつけてね。 (交流学級の仲間)</p>	<p>※茶会を成功させるために、仲間と声を掛け合い、園児や他チームの手伝い等の活動ができる場を設定する。</p>	<p>*お茶の粉を、茶せんを使ってシャカシャカと混ぜるとできるよ。 (交流学級の仲間)</p>
5分	<p>3 おいしいって言ってくれてよかった。ここでちょっと年長さんのための休憩タイムをとろう。</p>		
	<p>A: みんな、きょうりゅう兄ちゃんとじゃんけんしよう。</p>	<p>B: どのチームもがんばっているな。僕も、年長さんのためにがんばろう。</p>	<p>C: みんなお行儀よく座っていてえらいね。ちょっと休憩してもいいよ。</p>
10分	<p>4 次はいよいよBCチームの出番だよ。箏で「さくらさくら」をうまく弾いてね。</p>		
	<p>A: あれっ、あの子、どうしたのかな? 女の子だから、○○さん、ちょっと、聞いてみて。</p>	<p>B: 箏で「さくらさくら」と音楽の時間に僕たちが作った曲を発表します。聞いてください。</p>	<p>C: 私たちがお手伝いできることはないかしら。</p>
	<p>※園児に手助けが必要な時は、仲間と声を掛け合って活動できる場を設定する。</p>	<p>*僕たち4人できょうりゅう茶会のために作った曲です。 (交流学級の仲間)</p>	<p>※茶会を成功させるために、園児が必要としている手助けを、仲間と声を掛け合って活動できる場を設定する。</p>
5分	<p>5 保育園の子たちがたくさん拍手をしてくれた。きょうりゅう茶会は成功だね。協力してできたね。</p>		
	<p><b>④実社会とのつながりを意識させる設定</b> ※仲間とともに、今後も地域とのふれあいを大切にして活動を進めていこうという気持ちを高めて茶会が終わるように、一人一人が終わりの言葉を言う場を設定する。</p>		
	<p>A: これで、きょうりゅう茶会を終わります。僕の恐竜の真似を喜んでくれてうれしかったです。また、みんなと遊ぶ計画を立てたいです。待っていてね。</p>	<p>B: 僕たちの箏の演奏はどうでしたか? たくさん拍手をしてくれてありがとう。うれしいです。最後におみやげもあるから楽しみにしてください。</p>	<p>C: 私たちが点てたお茶はおいしく飲めましたか? 今度またお茶会をする時があったら、みんなも一緒にお茶を点ててみましょう。楽しいですよ。</p>

(3) 授業者が本時を振り返る視点

教師の補助を最小限にして、チームの仲間とコミュニケーションを取る場を設定して活動を進めたことは、仲間の大切さに気づかせ、これからも仲間と一緒に地域とのふれあい活動を進めていこうという気持ちを高めるのに有効であったか。活動の様子や最後の終わりの言葉から検証する。